

# 反語文の“不是…（吗）？”について

## —日本語と比較しながら—

曹 泰和

（お茶の水女子大学院）

有关“不是…（吗）？”的语义前提前人已有所论述。一是受话人对信息已知，二是说话人认为受话人的观点不对或不清楚需要扭转或需澄清。但以往的论述并不很具体。本文通过与日文的「～ではない（か）」的对比，使之语义条件更为突出，并找出“不是…（吗）？”所不具备的语用功能，追究其原因何在？此外，本文对已提出的语义前提稍加补充，指出受话人有无认识能力也是能否使用“不是…（吗）？”的前提之一。并表示说话人与受话人的认识或状况不统一的“先行语”什么时候可以省略什么时候不可省略的问题稍加提示。本文还对“不是…（吗）？”所体现出的意外性加以分析，指出其出现的语言环境。本文接着讨论“不是…（吗）？”在表达判断时所体现出的说话人的语气强弱的问题。最后，通过对日语要求确认的表达及汉语要求说明原因的表达的分析，指出在相同语言环境下的不同语义特征。

0. 問題提起
1. 情報の有無について
2. 認識と状況のギャップについて
3. 意外性について
4. 判断のモダリティについて
5. 「確認要求表現」と「原因追究表現」
6. むすび

### 0. 問題の提起

従来の研究によると、劉月華（1991）は「反語文の働きは、ある明らかな道理や事実に対して反語の語気を使ってそれを肯定または否定することによって語調を強めることにある。」と修辭的に説明している。また、蕭国政（1997）は“……不是……？”这类反意，细细品来语表式比语里式语气

強烈、要使两式全等，语里式要在‘是’前面加上‘的确’‘就’等语气词。”とさらに具体的に述べている。蕭氏の観点から言うと、反語文の“……不是……？”＝肯定文の“……就是……”になる。しかし、“那男的不是犯人吗？”と“那男的就是犯人。”の「命題」が等価であっても、話し手の捉え方が異なるので、意味的には決して同じとは言えない。具体的に言うと、“那男的不是犯人吗？”の場合は“为什么放出来了呢？”のような言外の意味を連想させるが、“那男的就是犯人。”の場合はこのような言外の意味は考えにくい。

さらに、反語文と平叙文における意味的相違として、邵敬敏(1996)は“反问句显示说话人内心的不满情绪。……，这种不满情绪的发泄是一般句式很难显示的。”と論じ、語用論の観点から反語文の意味的特徴を探ろうとした。しかし、次のような例を見ると、これは反語文と平叙文の根本的な違いではないことに気づく。

(1) a. 你这不是在故意制造紧张空气吗？

b. 你这就是在故意制造紧张空气。

例 a も例 b も「強調」「責め」の修辭的及び語用論の意味を持っている。すなわち、反語文である a で言い表している「責め」の意味と「強調」の機能は、平叙文である b も同様に備えている。このような従来の解釈では、反語文と平叙文の本質的な違いについての記述が不十分であると言える。

本稿は、情報管理理論、およびモダリティの視点から、日本語の「～ではない(か)」「(の)ではなかったか」も含める)との比較を通し、“不是…(吗)？”の成立条件を明らかにしたい。それと同時に、機能の面では、日本語と比べてどのような相違があるのかを提示する。さらに、意外性や判断のモダリティについて論じ、“不是…(吗)？”の特徴をより浮き彫りにしたい。最後に、日本語の「確認要求表現」と中国語の「原因追究要求表現」を取り上げ、意味的特徴の相違を論じる。

## 1. 情報の有無について

中国語の“不是…(吗)？”の成立条件として、まず、聞き手が情報をすでに持っていないことが挙げられる。

- (2) a. おい、君のシャツのボタン、取れそうじゃないか。(宮崎 1993)  
 b. \* 诶，你衬衫的扣不是要掉了嗎？
- (3) a. 君はこの靴がいいと言ったけど、履いてみると、痛いじゃないか。(宮崎 1993)  
 b. \* 你说这鞋好，穿上一看，不是疼嗎？
- (4) a. 誕生日にプレゼントあげるって言ったじゃない。  
 b. 你不是说过生日给我礼物嗎？
- (5) a. あなたは早く結婚したいと言ったじゃないか。(宮崎 1993)  
 b. 你不是说想早点儿结婚嗎？（那就快点准备呀）
- (6) a. (彼に僕のズボンがかっこ悪いと言われて) よくみろよ、(僕のズボン) かっこいいじゃないか。(宮崎 1993)  
 b. (他说我的裤子不好看) 你好好看看，我的裤子不是挺好看の嗎？

例(2)の b と例(3)の b が不成立である理由は、聞き手が情報を持っていないからだと考えられる。聞き手の知らないこと(例(2)、ボタンが取れそうであること)、あるいは話し手自身に属する内的感覚を話題にする場合(例(3)、靴を履いてみると、(話し手の足が)痛い)は、中国語では“不是…嗎？”を用いて、聞き手に認識をさせることができない。

(4) b、(5) b、(6) b が成立する理由は、聞き手が話し手に言われた情報をすでに持っているからだと考えられる。

中国語の場合は、聞き手が情報を持っているかどうかは、“不是…嗎？”が成立するための不可欠な前提である。ところが、聞き手がその情報の前提を持っていても文が成立しない場合がある。例えば、次の例(7)の場合である。

- (7) a. あなたはこのビールがうまいと言っていたが、飲んでみたらなるほどなかなかうまいじゃないか。  
 b. \* 你说这个啤酒好喝，喝了后的确这不是挺好喝的吗？  
 c. 你说这个啤酒难喝，喝了后这不是挺好喝的吗？

上記の例(2)は、聞き手が「シャツのボタンが取れそう」という情報を持っていないのと比べて、(7)の場合は、話し手も聞き手もビールを飲んだ。すなわち、話し手と聞き手両方が「ビール」に関する「情報」を持っている。ところが、それにもかかわらず、(7)の b は不成立である。つま

り、聞き手が情報を持たなければならないという前提は必要ではあるが、それだけでは不十分であるということになる。それでは、聞き手が情報を持つという前提以外、ほかに何が必要なのか。例(7)のbとcの違いを見てみると、bの場合は、聞き手と話し手両方とも「このビールがうまい」という共通の認識を持っている。一方、cの場合は、話し手が「このビールがうまい」、聞き手が「このビールがまずい」という互いに反対の認識を持っていて、(7)cは成立している。この話し手と聞き手の間に「認識のギャップ」があるか否かが、例(7)のbとcの文が成立するかどうかの原因ではないかと考えられる。以下から、話し手と聞き手における認識のギャップについて検証してみる。

## 2. 話し手と聞き手における認識のギャップについて

- (8) a. おい、背中に毛虫がついてるじゃないか。(宮崎 1993 の例)  
 b. \* 喂, 你背后不是落个虫子吗?  
 c. \* 你说这虫子多, 瞧, 你背后不是落个虫子吗?  
 d. 我说这虫子多你不信, 瞧. 你背后不是落个虫子吗?
- (9) a. 触らないでよ、痛いじゃない。(宮崎 1993 の例)  
 b. \* 别碰! 我不是疼吗?  
 c. A: 你老哼哼什么呀? B: 我不是疼吗?
- (10) a. (優勝した友人に) やるじゃない。  
 b. \* 这不是真棒吗?  
 c. 你真棒!
- (11) a. A: この服はどう? B: うん、なかなかいいじゃない。  
 b. A: 这件衣服怎么样? B: \* 嗯, 这不是挺好的吗?  
 c. 这件衣服你说不好看, 瞧, 这不是挺好看的吗?
- (12) a. A: あ～眠い。B: コーヒーでも飲んだら目が覚めるんじゃない。  
 b. A: 啊, 真困。 B: ? 喝杯咖啡不是就精神了吗? (= 喝杯咖啡就精神了。)  
 c. 喝杯咖啡是不是能精神精神。(喝杯咖啡怎么样?)
- (13) a. 最近って、子供の誘拐事件が多いじゃない。  
 b. \* 最近拐骗小孩的不是挺多的吗?

c. 前几天电视上说, 最近拐骗孩子的案件很多, 你看了吧? ……

上記の日本語の文をそのまま中国語に替えると、すべて非文になる。(8) b, c (9)b (10)b (11)b (12) b (13)b) さらに機能的な面から考えると、上記の場合では、日本語の「～ではないか」によって表されている機能は、中国語の“不是…吗?” にはないということになる。

では、例(8)から例(13)の「～ではないか」では、どのような機能が示されているのか、それらの機能が中国語の“不是…吗?” においては、なぜ持っていないのかを分析してみよう。

日本語の「～ではないか」について、先行研究ではまず次の四つの機能が指摘されている。①「注意喚起」(例 8, 9); ②「評価」(例 10, 11); ③「仮説提示」(例 12); ④「話題提示」(例 13)。本稿は、反語文の“不是…吗?” が「注意喚起」「評価」「仮説提示」「話題提示」の機能が実際あるどうかを確認するため、300 万字以上にわたって資料を調べた。その結果、86の例文を収集することができたが、これらの用法に当る用例は見当たらなかった。では、なぜ中国語の“不是…吗?” はこれらの機能を持っていないのかを考えてみよう。

まず、日本語の「注意喚起」の定義については、宮崎 (1993) は「聞き手がまったく気づいていないことを指摘する発話である」と述べている。これに従えば、聞き手がすでに情報を持っていないからならぬことを前提とする中国語の“不是…吗?” には、確かにこの機能がない。ところで、中国語の反語文は“提醒”(「注意を促す」)の機能があることが知られている。例えば、次の例である。

(14) “你别这样好不好? 别这副生离死别的样子好不好, 明天你不是还要来?” (空中小姐 王朔)

つまり、中国語の場合は、話し手は聞き手が知らないことを「注意喚起」しようとするのではなく、聞き手がすでに知っていること、しかし、聞き手ははっきり認識していないと話し手によって思われる時に、話し手がこの“不是…(吗)?” を用い、聞き手の認識をはっきりさせようとするのである。

例(8)の b と c を比べてみると、b の文において、“你说这虫子多” と “你背后落个虫子” は聞き手(“你”)の認識と聞き手が遭遇した出来事であり、

話し手の認識とは何の関わりもない文である。このような文脈では、“不是…(吗)?”は用いられない。また、cの文を見ると、“我说这虫子多”と“你不信”の発話は、話し手と聞き手との間に認識のギャップがあることを表している。“不是…(吗)?”はこのようなギャップのある文脈に用いられるときに成立している。

例(9)の場合は、話し手と聞き手の認識におけるギャップがそれほどはつきり示されていないが、Aの“你老哼哼什么呀?”の発話から、聞き手Bの「痛みがある」という認識が話し手Aにはないことが分る。つまり、“你老哼哼什么呀?”という質問によって、話し手と聞き手との間にギャップを生み出し、“我不是疼吗?”の発話を成立させたのである。

例(10)の自然な「褒めことば」としては、cのような表現であろう。反語文の“不是…吗?”に続くことばは、「マイナス表現」になることが多い。86例について調べた結果、「プラス評価」が反語の“不是”の後に続く文は一つもなかった。例(11)の“这不是挺好看的吗”の“挺好看的”はプラス評価であるものの、反駁の上の評価であるため、結局、“不是…吗?”は「プラス評価」の機能があるとは言えない。

例(12)の場合は、日本語は「仮説提示」になるが、中国語の“喝杯咖啡不是就精神了吗?”の表現は「確定表現」であり、“喝杯咖啡肯定精神”という意味であり、“你为什么 not 喝呢”のようなニュアンスが含まれている。「仮説提示」は聞き手にあることを提示するだけであり、その決定権は聞き手に委ねている。この点から見ると、「仮説提示」は一種の弱い表現と言えよう。これは、「強調」を特徴としている中国語の反語文とは異なる。日本語の「～ではないか」と中国語の“不是…吗?”は、この点で異質である。

(13)aのような例は、日常的によく用いられる表現である。この場合の「～ではないか」は、話し手が話題を切り出す際に聞き手も自分と同じ認識状態に導いていくために用いられた表現だと思われる。一方、中国語では、これまでに観察してきたように、話し手と聞き手の間で認識のギャップが感じられない場合は、“不是…吗?”を用いて、話題を切り出すことが出来ないので、(13)bは成立しない文となるわけである。

上記の(8)から(13)までの例をまとめて見ると、話し手と聞き手との間で

ギャップがない場合は非文になり、ギャップのある表現に替えると、文が成立することになる。従って、話し手と聞き手における認識のギャップの存在は“不是…吗？”を用いる条件であることが検証された。

ところで、話し手と聞き手との認識のギャップはある状況から生じる場合がある。つまり、聞き手の認識（＝聞き手の旧認識＝話し手の認識）と発話時の状況が違う場合である。例えば、“你说他不会迟到，这不是还没来吗？”のような例の場合である。

日本語と比べて異なるところは、日本語は先行の発話がなくても、文が成り立つが、中国語は先行する文がないと成り立たないところである。例えば、次のような場合である。

- (15) a. (約束の時間に遅れてきた相手に) 遅いじゃない。(遅刻じゃない)  
 b. \*不是太晚了吗？(\*不是迟到了吗？)  
 c. 你说你这回一定不迟到(你瞧/你看)，这不是又迟到了吗？

先行する発話の働きを考えると、話し手と聞き手との間のギャップを生み出したり、また明らかにしたりするものである。逆に、話し手と聞き手の間のギャップが明らかでわざわざ言明する必要のない場合では、先行する発話の必要性もなくなる。例えば、“你手里拿的不是我的笔吗？”のような場合では、“你认为你的笔”のような発話が特に言語化されなくても、“你手里拿着我的笔”という事実から互いの認識のギャップが明らかに表されている。

さらに、述べておきたいのは、聞き手がある事態に対して認識できる能力があるかどうかも文の容認度にかかわってくるということである。例えば、次のような場合である。

- (16) 箸を持って遊んでいる幼児(3, 4才)に向かって保母は：  
 a. 箸を持って遊んだら危ないじゃない。  
 b. ? 拿筷子玩儿这不是太危险了吗？(? 拿筷子玩儿这不太危险吗？)  
 c. 不能拿筷子玩儿，太危险了。

- (17) 子供に自転車の二人乗りが危険であることを注意している母親の発話。  
 a. 二人乗りはやめなさい。危ないじゃないの。  
 b. 不能骑车带人，这不是太危险了吗？

